

## (注) 統計の値について

平成18年12月に、福祉人材情報システムの移行を行い統計の仕様を一部改めたため、平成18年度の統計と比較する際は、以下の点に留意いただきたい。

### (求人統計)

#### ○18年12月の新規求人数

システム移行を行った際、すべての求人を新規求人としてデータ移行したため、18年12月の値は突出した値となっている。

#### ○18年12月の有効求人数

システムの移行にともない、有効求人データを新システムに移行させた際、移行させる求人の絞込みを行ったため、18年12月の値には、落ち込みがみられた。

#### ○求人の有効期限の設定について

旧システムでは、求人にも有効期限を設けていなかったが、新システムでは、有効期限を設けた(有効期間は最大、公開日の含む月の翌々月末となる)。

#### ○19年3月の有効求人数について

18年12月にデータ移行させた求人が19年2月末に有効期限を迎えたため19年3月の有効求人数が減っている。

#### ○19年度の新規求人数について

19年度の新規求人数の増加は、システム移行により求人にも有効期限を設けたことが影響している。有効期限後も引き続き求人を掲載する場合、再度新規に求人を登録することが必要となるため。

#### ○19年度の有効求人数について

18年度に比べ大幅に減っているが、その理由は、求人にも有効期限を設けたこと、求人事業所自身が必要な時に求人を出し、必要がなくなれば求人を速やかに取り下げるシステムになったこと、代行入力をしないセンター・バンクが増えたこと等が影響しているものと考えられる。

### (求職者統計)

#### ○新規求職者数の意味の違い

旧システムでは、求職者の有効期限内に就職が決まらず登録を延長した場合、新規求職者として取り扱っていた。このため、新規求職者の中には、全くの新規求職者(純新規)に加えて、更新新規の求職者も含んでいた(更新新規)。新システムでは、求職者についても有効期限を設けているが(登録日の翌々月末)、更新新規を新規としてカウントしていないため、新規求職者の値は、全くの新規求職者(純新規)の数に近いものとなっている。

#### ○18年12月の新規求職者数

18年12月のシステム移行の際、有効求職者を新規求職者としてデータ移行したため、18年12月の値は突出した値となっている。

### (有効求人倍率)

有効求人数の減少により有効求人倍率は、18年11月以前と18年12月以降では異なる傾向の値となり低く推移している。

### (紹介・応募人数)

旧システムの値は、紹介人数のみであるが、新システムは、求職者が応募用紙を使って応募する応募型のシステムであることから、紹介人数に応募人数を加えた紹介・応募人数としてカウントしている。

### (採用人数)

#### ○採用人数のタイムラグ

新システムでは、事業所が申告した人数を基に採用人数を確定させるため、申告が採用の次月にずれ込めば、その月の採用人数としてカウントされる。

#### ○18年12月以降の採用人数について

平成18年12月のシステム移行時に値が落ち込み、その後回復している。値の落ち込みがシステム移行時に限られることから、落ち込みの一因として、新システムでの採用人数の入力操作に不慣れだった状況が考えられる。

### (基本統計と詳細統計との整合について)

佐賀県福祉人材センターから報告いただいている職業紹介実績は、求人状況・求職状況とも基本統計のみであるから、「求人状況」「求職状況」とも基本統計を2種類作成している。よって、求人状況と求職状況の詳細統計は、基本統計の佐賀県を加えていないものが母数となっている。